



山崎 良志

Ryoji Yamazaki

総務省 情報流通行政局
地域通信振興課長

挑戦

これまでのキャリアをふりかえって

皆さん、こんにちは。地域通信振興課長の山崎です。昨年夏からICT(情報通信技術)を活用した地方創生を進めています。日本中にWi-Fiを整備し、海外からの観光客に楽しく我が国を旅してもらう環境づくり、地震や台風の正確な情報が全国どこでも、テレビにネット、スマホやカーナビで瞬時にわかる安心・安全な暮らし実現のため、27名の課員を率い、毎日の業務に取り組んでいます。技術の革新を政策として実現する手段が制度です。日々進化するICT。その制度づくりは挑戦の連続です。「全国どこに住んでも暮らしやすい国をICTの力で創りたい」と国家公務員を志して25年。ICTを支える制度は変わっても、自身を支える「志」はいつも変わりません。未来の新技术を将来の制度に活かすのは、皆さんの若い頭脳、新しい感覚です。ともに挑戦できる日を楽しみにしています。



■1991～1993 貯金局経営企画課

最初の配属先は貯金局。郵便貯金の法令担当の末席で2度の法律改正と8度の政令改正を体験。大学の講義とは異なる、行政官の法令実務を学びました。長年の懸案、国家公務員給与振込の省令改正を任せてくれた上司に、自分の給与が記帳された郵便貯金通帳をお見せできたのが「初挑戦」の思い出です。

■1993～1994 電気通信局電波部電波利用企画課

スタート直後の電波利用料の法令担当。利用料を納めない無線局免許人の財産を差し押さえる制度を立ち上げました。開始から20年余、電波利用料は皆さんの理解を得、携帯・スマホの基地局整備や周波数有効利用の研究に使われています。設計した制度が世の中の役に立つことは国家公務員の喜びです。

■1995～1997 大臣官房国際部国際政策課国際経済室北米経済係長

1994～1995 米国留学

米国のロースクールで修士号を取得。帰国後、米国・カナダ、WTO・OECDの経済交渉担当係長に。時差のある交渉は24時間365日。体力的には大変でしたが、留学中大量の判例を読み込んだ毎日が条約の案文交渉に活かされました。高校の同級生の妻と結婚、現在、共働き生活21年目です。

■1997～1999 福岡市総務企画局企画調整部課長(高度情報化担当)

地方勤務、29歳で政令市の管理職に。公共施設予約のネット化や市営地下鉄トンネルを活用した光ファイバ網の整備など、現場の声を政策に活かす機会に恵まれました。条例案の担当課長として市議会に答弁したのも得難い経験です。当時の上司、同僚はいつも心の支え。長女を授かり、父となりました。

■1999～2001 情報通信政策局情報通信利用促進課課長補佐 他

福岡から課長補佐として霞ヶ関へ。誰もが使いやすいICTの普及を進めました。お年寄りや体の不自由な方の声をガイドラインにまとめ、提供者へ橋渡し。助成制度を初めて予算化し、電話リレーサービス(オペレーターが耳の不自由な方に文字・手話⇄音声を通訳)が実現した日の感激は忘れられません。

■2001～2005 自治行政局自治政策課課長補佐 他

情報通信政策局で光ファイバ網全国整備、自治行政局で公的個人認証(マイナンバーカードに格納された電子証明書)の開始・法改正に取り組みました。冒頭の「志」を実現する好機。実務の中心として奔走した課長補佐時代。長男が生まれ、自転車に3人乗りで毎朝保育園に通ったのも懐かしい記憶です。

■2005～2008 郵政行政局管理室長 他

情報通信政策局でICT政策総括、秘書課で人事・採用・研修を担当後、郵政民営化スタートの日、郵政行政局で管理職に昇任。全国の郵政社員やお客さまから、民営化後の現場の声を聴きました。地方における郵便局の存在意義を実感したことが、後に内閣官房で携った民営化見直しの制度設計に役立ちました。

■2008～2009 総務大臣秘書官 他

新設の情報通信国際戦略局、ICT予算総括の調査官を経て、鳩山邦夫・佐藤勉両総務大臣の秘書官を務めました。省トップと事務方をつなぐ重要な役割を任せられた緊張の一年間。政と官の様々な意思決定に立ち会えたことは、国家公務員として、また、一人の社会人として、極めて濃密で貴重な経験でした。

■2009～現在 情報流通行政局情報セキュリティ対策室長 他

内閣官房の郵政民営化見直しチームで、内閣提出法案の立案や現行法である議員立法の成立・施行に尽力しました。総務省に戻り、急増するサイバー攻撃への新たな官民・国際連携対策、郵便・信書便制度見直しの法改正の陣頭指揮を執りました。管理職として、部下が働きやすい職場づくりに努めています。



若き挑戦者たちと



21世紀生まれの息子と背比べ